

サウジアラビア経済概況

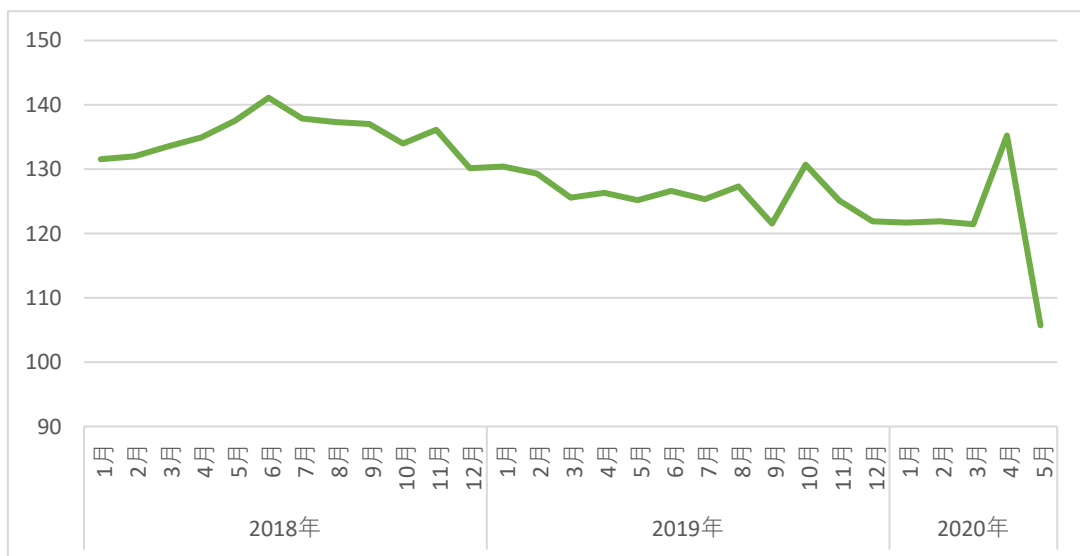
一般財団法人 中東協力センター

1. 5月の経済概況

(1) 生産動向

- ① 5月の鉱工業生産指数（IPI：Industrial Production Index）は、前年同月比▲15.52%の大幅下落となった。
IPIのウェイトにおいて74.5%を占める鉱業・採石業が前年同月比▲11.98%の下落となった他、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて製造業が▲25.91%の大幅落ち込みとなっていることを反映している。【図1、表1】
- ② 4月のIPIは前年同月比+7.04%の上昇を示していたが、その最大の要因は、石油生産量を3月の970万B/Dから1200万B/Dを引き上げる決定をしたことによる。その後、OPEC+の合意が成立したことにより、原油生産量が850万B/Dに引き下げられたことが5月のIPIの下落に反映した。【表1】
- ③ 製造業は、対前月比では全ての業種で高い復調を示したが、なお新型コロナウイルス感染拡大の影響により工場の稼働が制限されているため、前年同月比では、飲料品を除き、大幅な生産活動水準の低下を示している。【表2】

【図1】 鉱工業生産指数（IPI）総合指数の推移 (2010年=100)



出典：サウジアラビア総合統計庁

【表 1】 鉱工業生産指数 (IPI) の構成とウェイト (2010 年=100)

	5 月 IPI 指数	前年同月比 (%)	ウェイト (%)
総合指数	105.73	-15.52	100
鉱業・採石業	104.24	-11.98	74.5
製造業	107.99	-25.91	22.6
電力・ガス	126.45	-8.08	2.9

【表 2】 IPI の「製造業」業種別動向 (2010 年=100)

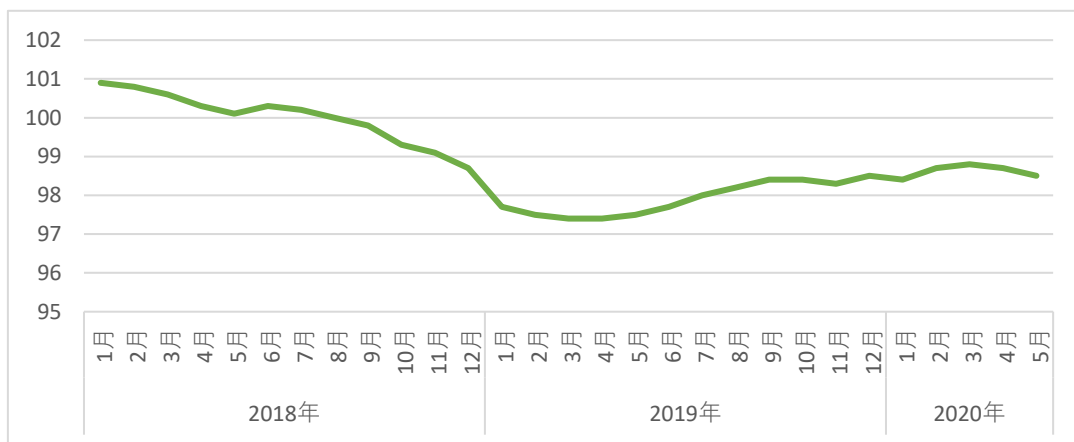
	指数	前月比 (%)	前年同月比 (%)
コークス・精製石油製品	113.10	+8.0	-30.1
化学製品	133.75	+3.3	-15.3
食料品	140.51	+4.8	-18.2
金属	87.63	+5.3	-36.4
その他非金属鉱物製品	105.20	+13.8	-31.5
金属加工品	108.85	+14.1	-17.5
電気設備	75.51	+8.9	-46.6
紙・紙製品	73.95	+17.0	-37.1
ゴム・プラスチック製品	78.55	+15.0	-46.3
家具	85.54	+15.7	-48.4
機械・機械部品	69.81	+7.9	-51.1
衣料品	74.18	+14.6	-46.5
飲料品	147.55	+9.1	+5.6

出典：サウジアラビア総合統計庁

(2) 物価動向と消費関連指標

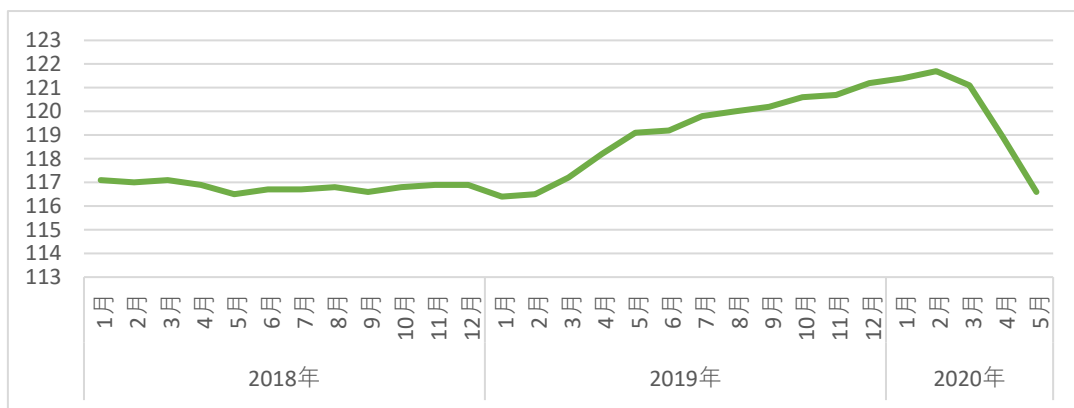
- ① 5 月の消費者物価指数 (CPI) は、前年同月比+1.1%の上昇となった。食料品・飲料品価格の+7.0%上昇等が要因となっている。ただし、CPI の指数は 98.5 (2018 年=100) であり、一昨年を下回る水準となっている。【図 2】
- ② 卸売物価指数 (WPI) は、前年同月比▲2.1%の下落となった。農作物、家畜・動物製品価格が上昇した一方で、石油製品価格が下落した。【図 3】
- ③ 消費動向を POS 決済データ (金額ベース) で見ると、5 月は 4 月の落ち込みからは回復傾向を示したが、対前年同月比ではなお▲15.7%下落の約 234.5 億 SAR となった。飲食料品は+57.4%、通信は+30.3%という伸びを示した。【図 4】

【図2】 消費者物価指数（CPI）の推移 (2018年=100)



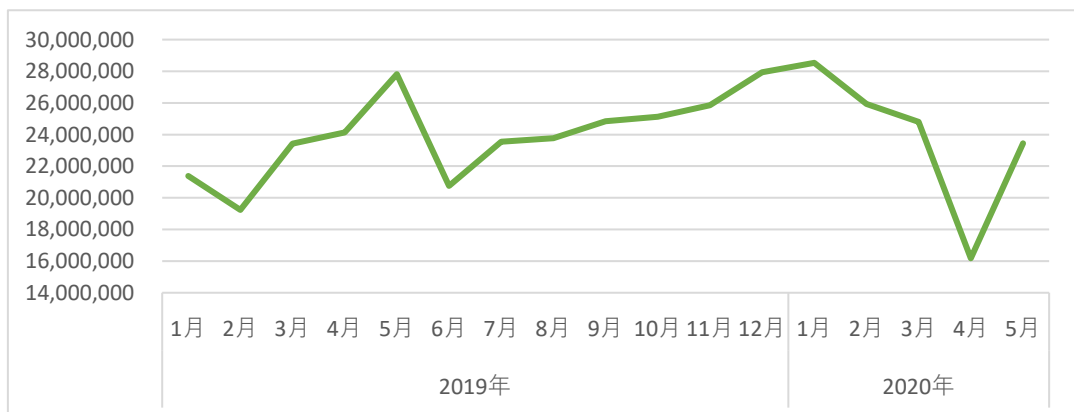
出典： サウジアラビア総合統計庁

【図3】 卸売物価指数（WPI）の推移 (2014年=100)



出典：サウジアラビア総合統計庁

【図4】 POS（Point of Sales）月次売上データ（金額ベース）の推移（単位：1000SAR*）



出典：サウジアラビア通貨庁

*本報告書ではサウジアラビア通貨庁（SAMA）が公表する統計を引用しており、通貨に関しても、サウジアラビア通貨（サウジリヤル：SAR）をそのまま引用している。なお、サウジアラビア政府は本国通貨をドルに連動（ペッグ）させる為替相場管理制度を採用しており、公式為替レートは1USD=3.75SARとなっている。

（3）金融関連指標の動き

- ① 銀行間金利は低下傾向にある。米国が量的緩和からの正常化を模索していた 2018 年までは、ドル・ペッグ制を取るサウジアラビアも政策金利を上げざるを得ない環境にあったが、19 年に入ってから FED の方向転換と、本年の新型コロナウイルス感染症蔓延下での「超」金融緩和によって、サウジアラビアも緩和的な金融環境にある。【表 3】
- ② サウジアラビアの外貨準備高は、3、4 月にかけて相当減少しているが、これは主として、公共投資基金（Public Investment Fund）による今後の投資計画のため、総額 1500 億 SAR を準備資産から PIF に移し替えるという決定を反映したものと見られる。【表 4】

【表 3】 銀行間取引金利（3M SAIBOR） （単位：％）

	2019 年	2020 年
1 月	2.9709	2.2710
2 月	2.9403	2.1397
3 月	2.8917	1.3019
4 月	2.8576	1.2281
5 月	2.8507	1.1293
6 月	2.7564	
7 月	2.6802	
8 月	2.4790	
9 月	2.3822	
10 月	2.3053	
11 月	2.2303	
12 月	2.2375	

出典：サウジアラビア通貨庁

（注）：「銀行間取引金利（Interbank Offered Rates）」は、各国の金融市場において銀行同士が日々、短期資金（1 週間～12 か月）を融通し合うコール市場の基準金利で、ローン・債券・デリバティブなど多くの金融商品の参照金利や、中央銀行の金利政策における公開市場操作の指標ともなる。LIBOR（ロンドン）、FF 金利（米国）、TIBOR（東京）、

EURIBOR（欧州）が代表的で、サウジアラビアでは SAIBOR（セイボー）となる。

【表 4】 月次外貨準備高

（単位：100 万 SAR）

2019 年	5 月	1,898,016
	6 月	1,884,772
	7 月	1,846,015
	8 月	1,863,129
	9 月	1,835,775
	10 月	1,792,847
	11 月	1,834,327
	12 月	1,830,919
2020 年	1 月	1,839,602
	2 月	1,822,759
	3 月	1,733,373
	4 月	1,638,811
	5 月	1,641,657

出典：サウジアラビア通貨庁

2. 2020年第1四半期（1月～3月）のサウジアラビア経済

- ① 第1四半期の名目 GDP は、前年同期比▲3.2%のマイナス成長となった。卸小売・レストラン・ホテル（+6.8%）、建設（+5.4%）等が前年同期比で伸びた一方、原油・天然ガス（▲18.1%）、石油精製（▲12.8%）での付加価値の減少が凌駕した。【表5】
- ② 実質ベースでは、第1四半期の GDP は前年同期比▲1.0%とされている。【表5】
- ③ 支出ベースで名目 GDP 構成要素の動きを見ると、民間最終消費支出および政府最終消費支出は対前年同期比で増加したものの、総資本形成は▲5.4%減少した。
- ④ 名目 GDP 減少の最大の要因は、純輸出の減少（前年同期比▲40.8%）である。原油価格の下落を反映して、物品輸出に占める石油輸出額の割合も対前年同期比で減少したが、なお3/4を占めている。【表6、7、8】

【表5】名目 GDP のセクター別付加価値額と変化率

セクター別	名目 GDP	名目成長率(%)	実質成長率(%)
1. 農業・林業・漁業	17,443	0.7	-0.3
2. 鉱業・採石業	158,297	-17.7	-2.8
a) 原油・天然ガス	154,511	-18.1	-2.9
b) その他	3,786	4.6	4.6
3. 工業	92,510	-4.2	-8.8
a) 石油精製	23,772	-12.8	-24.2
b) その他	68,738	-0.8	-2.6
4. 電気・ガス・水	5,939	-3.2	0.2
5. 建設業	42,100	5.4	2.2
6. 卸売・小売業・レストラン・ホテル	75,884	6.8	4.8
7. 輸送・保管・通信	46,837	4.2	4.1
8. 金融・保険・不動産・サービス業	94,497	2.0	1.0
a) 不動産	54,156	-1.3	-1.4
b) その他	40,341	6.8	3.9
9. コミュニティー・社会サービス	17,586	5.5	3.7
10. 帰属銀行手数料	6,170	10.5	7.8
小計	544,923	-4.7	-1.5
政府サービス	145,967	2.7	1.5
輸入関税を除く合計	690,890	-3.3	-1.0
輸入関税	4,680	6.3	4.7
国内総生産 (GDP)	695,570	-3.2	-1.0

出典：サウジアラビア総合統計庁

【表 6】 支出ベースの名目 GDP（国内総支出）の内訳 (単位：100 万 SAR)

支出項目	金額	金額（前年 Q1）
1. 政府最終消費支出	167,334	151,611
2. 民間最終消費支出	288,972	284,833
3. 在庫変動	41,286	51,487
4. 総資本形成	151,635	152,394
5. 商品・サービス輸出	216,103	270,917
a) 商品輸出	197,857	249,376
b) サービス輸出	18,247	21,541
6. 商品・サービス輸入	169,760	192,699
a) 商品輸入	124,099	129,818
b) サービス輸入	45,660	62,881
国内総生産（支出ベース）	695,570	718,543

出典：サウジアラビア総合統計庁

【表 7】 対名目 GDP 貿易収支寄与度 (寄与度を除く単位：100 万 SAR)

暦年	四半期別	輸出	輸入	貿易収支	名目 GDP	前年同期比寄与度 (%)
2018 年	第 1 四半期	260,919	192,908	68,011	699,191	-
	第 2 四半期	298,596	195,752	102,844	738,851	-
	第 3 四半期	311,056	184,456	126,600	745,062	-
	第 4 四半期	306,336	213,337	92,999	766,354	-
2019 年	第 1 四半期	270,917	192,699	78,218	718,543	1.45
	第 2 四半期	277,712	200,662	77,050	740,032	-3.49
	第 3 四半期	262,101	195,844	66,257	745,369	-8.09
	第 4 四半期	260,690	187,872	72,818	769,681	-2.63
2020 年	第 1 四半期	216,103	169,760	46,343	695,570	-4.43

出典：サウジアラビア総合統計庁

(注) 寄与度の計算は以下の通り。

$$\text{寄与度 (\%)} = \frac{\text{各構成要素データの増減 (今回値 - 前回値)}}{\text{全体データの前回値}} \times 100$$

【表 8】 四半期別石油輸出額および物品貿易収支の推移 （単位：100 万 SAR）

暦年	四半期	石油輸出額	物品貿易収支額		
			輸出	輸入	貿易収支
2019 年	第 1 四半期	192,026	249,362	129,818	119,544
	第 2 四半期	199,801	255,713	142,981	112,732
	第 3 四半期	181,319	236,080	138,225	97,855
	第 4 四半期	185,741	239,530	130,232	109,298
2020 年	第 1 四半期	149,951	197,844	124,099	73,745

出典：サウジアラビア総合統計庁

3. 2019年のサウジアラビア経済

(1) 名目 GDP と物価指標の推移

- ① 2019年の名目 GDP は 2兆 9,736 億サウジリアル (SAR)、対前年比では+0.82%の増加となった。【表 9】
- ② 消費者物価指数 (CPI) は、12月を除いて対前年同月比がマイナス (下落) であったため、2019年平均でも前年比▲1.2%の下落となった。他方、卸売物価指数 (WPI) は、前年比+2.0%の上昇だった。【図 5】
- ③ 19年の実質ベースでの GDP は、前年比+0.33%の増加としている。【表 12】
- ④ 名目 GDP の変化をセクター別に見ると、原油・天然ガスが▲6.5%の減少となったのに対し、金融・保険・不動産・サービス業、卸売・小売業・レストラン・ホテル、輸送・保管・通信などが高い伸びを示している。政府サービスの伸びも大きい。【表 9】
- ⑤ 名目 GDP の変化を支出ベースで見ると、総資本形成 (+6.2%)、民間最終消費支出 (+3.5%) が高い伸びを示した。一方、12年には約 6,908 億 SAR あった貿易黒字は 19年に 2,943 億 SAR まで減少し、18年 (約 3,905 億 SAR) 対比では▲961 億 SAR と名目 GDP の減少要因となった。【表 11】
- ⑥ 原油価格が高騰していた 2012 年と比較すると、原油・天然ガスセクターの付加価値額は約 4,886 億 SAR 減少したが、政府サービスの増 (約+2,273 億 SAR) を筆頭に、金融・保険・不動産・サービス業 (約 1,428 億 SAR)、工業 (約+1,027 億 SAR)、卸売・小売業・レストラン・ホテル (約+789 億 SAR) 等多数のセクターが伸び、総額で 12 年を約 2,137 億 SAR 上回った。【表 10】

【表 9】 名目 GDP のセクター別内訳

セクター別	付加価値額 (100万 SAR)	対前年比 (%)
1. 農業・林業・漁業	66,411	+1.22
2. 鉱業・採石業	826,706	-6.33
a) 原油・天然ガス	813,502	-6.50
b) その他	13,203	+5.32
3. 工業	372,893	-1.30
a) 石油精製	104,054	-3.02
b) その他	268,839	-0.62
4. 電気・ガス・水	47,174	-4.25
5. 建設業	163,655	+8.03
6. 卸売・小売業・レストラン・ホテル	298,009	+6.37
7. 輸送・保管・通信	182,071	+6.06
8. 金融・保険・不動産・サービス業	375,269	+4.77
a) 不動産	210,038	+1.53
b) その他	165,232	+9.19
9. コミュニティー・社会サービス	67,626	+7.90
10. 帰属銀行手数料	24,366	+4.94
小計	2,375,449	-0.03
政府サービス	576,953	+4.17
輸入関税を除く合計	2,952,403	+0.76
輸入関税	21,223	+9.65
国内総生産 (GDP)	2,973,626	+0.82

出典：サウジアラビア総合統計庁

【表 10】 2008 年以降の名目 GDP および増減率推移 (名目 GDP 単位：100 万 SAR)

	2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年
名目 GDP	1,949,238	1,609,117	1,980,777	2,517,146	2,759,906	2,799,927
成長率(%)	+25.05	-17.45	+23.10	+27.08	+9.64	+1.45

	2014 年	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
名目 GDP	2,836,314	2,453,512	2,418,508	2,582,198	2,949,457	2,973,626
成長率(%)	+1.30	-13.50	-1.43	+6.77	+14.22	+0.82

出典：サウジアラビア通貨庁

※2019 年数値は推定値。

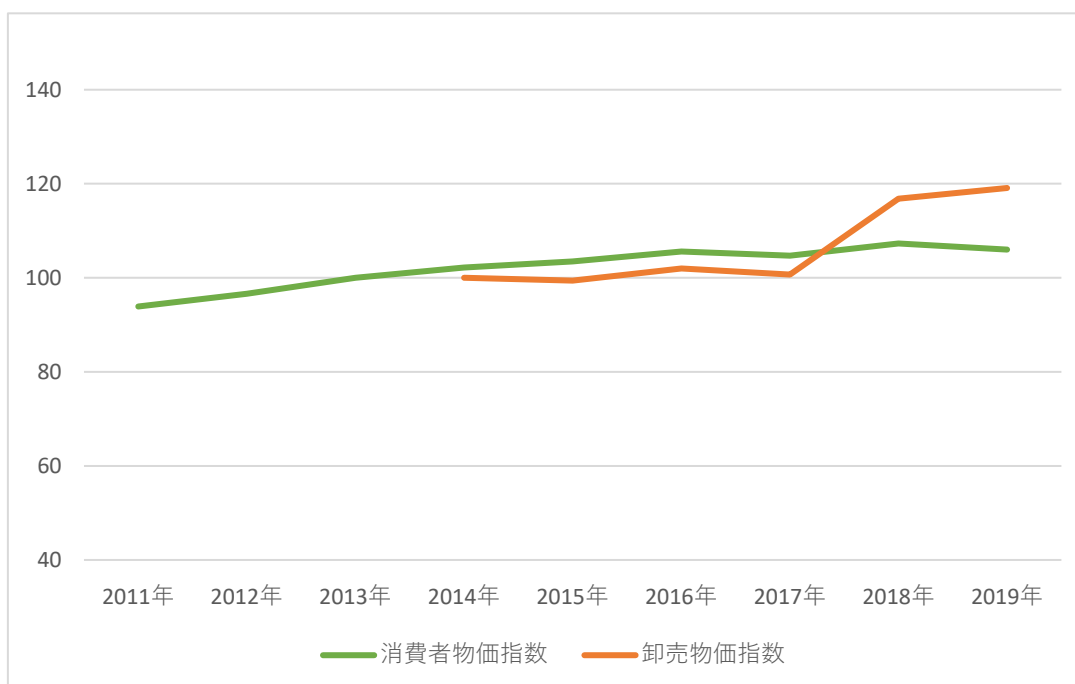
【表 11】 支出ベース名目 GDP (前年度比を除く単位：100 万 SAR)

	2018 年	2019 年	前年度比 (%)
1. 政府最終消費支出	726,101	709,171	-2.3
2. 民間最終消費支出	1,118,241	1,157,819	+3.5
4. 総固定資本形成	714,662	826,916	+13.5
5. 商品・サービス輸出	1,176,907	1,054,399	-11.6
6. 商品・サービス輸入	786,453	774,678	-1.5
国内総生産 (名目)	2,949,457	2,973,626	+0.8

出典：サウジアラビア総合統計庁

【図 5】 消費者物価指数 (CPI) と卸売物価指数 (WPI) の推移

【CPI：2013=100】 【WPI：2014=100】



出典：サウジアラビア総合統計庁

【表 12】 実質 GDP 成長率推移 (単位：%)

2008 年	2009 年	2010 年	2011 年	2012 年	2013 年	2014 年
+6.25	-2.06	+5.04	+10.00	+5.41	+2.70	+3.65
2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年		
+4.11	+1.67	-0.74	+2.43	+0.33		

出典：サウジアラビア総合統計庁 ※2019 年数値は推定値。

(2) 国際収支の動向

- ① サウジアラビアの輸出のうち、およそ8割程度が石油関連（2019年は、76.6%）である。サービス収支の面ではコンスタントに赤字を計上しているため、貿易収支は結局原油価格の動向に大きく左右されている。【表13】
- ② 14年後半以降の原油価格水準下落により、15年には一旦貿易収支の赤字も記録したが、18年にかけて持ち直した。しかし、19年は再び貿易黒字が前年比減少した模様である。【表13】
- ③ 原油輸出が大きく左右する物品のみの収支が名目GDPの増減に及ぼす影響（寄与度）を見ると、原油価格の回復が見られた18年には+10.20%もの成長要因となったが、19年には▲5.01%のマイナス成長要因となった。【表14】
- ④ サウジアラビアの輸出先国は、2015年に中国が首位となり、一旦17年に日本が首位となったが、18年からは再び中国が首位となっている。また、17年以降は、日中韓およびインドが上位4カ国を占めている。【表15】
- ⑤ 輸入面でも、17年からは、中国がアメリカを抑えて首位となっている。【表16】

【表13】 貿易収支

(単位：100万 SAR)

暦年	物品	サービス	貿易収支
2008年	795,101	-246,967	548,134
2009年	394,611	-244,658	149,953
2010年	576,418	-247,813	328,605
2011年	917,767	-249,342	668,426
2012年	924,639	-233,839	690,800
2013年	834,590	-243,027	591,564
2014年	689,981	-330,107	359,873
2015年	165,995	-275,858	-109,863
2016年	209,115	-198,803	10,312
2017年	369,229	-226,663	142,566
2018年	632,811	-237,834	394,977
2019年	484,809	-200,488	284,321

出典：サウジアラビア通貨庁

※2016年～2018年数値は暫定値、2019年数値は推定値。

【表 14】 物品収支の名目 GDP への寄与度 (寄与度を除き、単位：100 万 SAR)

暦年	物品収支	名目 GDP	寄与度 (%)
2008 年	795,101	1,949,238	-
2009 年	394,611	1,609,117	-20.54
2010 年	576,418	1,980,777	+11.29
2011 年	917,767	2,517,146	+17.23
2012 年	924,639	2,759,906	+0.27
2013 年	834,590	2,799,927	-3.26
2014 年	689,981	2,836,314	-5.16
2015 年	165,995	2,453,512	-18.47
2016 年	209,115	2,418,508	+1.75
2017 年	369,229	2,582,198	+6.62
2018 年	632,811	2,949,457	+10.20
2019 年	484,809	2,973,626	-5.01

出典：サウジアラビア通貨庁

※2016 年～2018 年物品収支数値は暫定値、2019 年物品収支数値は推定値。

※2019 年名目 GDP 値は推定値。

【表 15】 主要輸出先国 (単位：100 万 SAR)

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
2013 年	アメリカ	中国	日本	韓国	インド
	199,060	188,936	179,825	131,750	129,444
2014 年	アメリカ	中国	日本	インド	韓国
	162,460	160,680	156,821	113,828	123,557
2015 年	中国	日本	アメリカ	インド	韓国
	92,069	80,683	80,525	72,052	66,099
2016 年	中国	日本	アメリカ	インド	韓国
	79,916	72,342	66,128	63,880	57,432
2017 年	日本	中国	韓国	インド	アメリカ
	100,382	97,354	74,027	73,801	68,867
2018 年	中国	日本	インド	韓国	アメリカ
	146,702.9	123,645.8	98,689.4	97,592.2	95,621.8
2019 年	中国	インド	日本	韓国	アメリカ
	179,653.1	102,582.5	100,102.2	77,901.2	50,188.6

出典：サウジアラビア総合統計庁

【表 16】 主要輸入先国

(単位：100 万 SAR)

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位
2013 年	アメリカ	中国	ドイツ	韓国	日本
	85,376	78,488	44,812	36,018	35,153
2014 年	中国	アメリカ	ドイツ	日本	韓国
	87,122	84,730	47,093	37,306	32,336
2015 年	中国	アメリカ	ドイツ	日本	韓国
	92,398	89,678	46,116	37,286	37,251
2016 年	アメリカ	中国	ドイツ	UAE	日本
	77,727.7	75,308.9	34,331.0	28,626.3	27,820.8
2017 年	中国	アメリカ	UAE	ドイツ	フランス
	76,971.4	68,086.5	32,830.8	29,496.9	21,853.4
2018 年	中国	アメリカ	UAE	ドイツ	日本
	81,821.2	70,642.2	43,441.3	28,306.4	20,589.6
2019 年	中国	アメリカ	UAE	ドイツ	日本
	101,499.7	63,984.2	38,867.2	26,264.3	24,546.7

出典：サウジアラビア総合統計庁

(3) 石油輸出額推移

【参考 表 17】 石油輸出額推移

暦年	石油輸出額 (100 万 SAR)	アラビアン・ライト価格 (USD/bbl)
2008 年	-	80.38
2009 年	611,490	53.89
2010 年	807,176	68.60
2011 年	1,191,052	88.79
2012 年	1,265,551	93.06
2013 年	1,207,080	88.95
2014 年	1,067,092	80.34
2015 年	573,412	46.47
2016 年	510,729	38.32
2017 年	638,402	48.46
2018 年	868,442	61.91
2019 年	758,887	58.19

出典：サウジアラビア総合統計庁、通貨庁

4. セクター別トピック

(1) 石油分野

- ① OPEC+は、970万 B/D の減産を7月末まで延長することに合意（6月6日）

石油輸出国機構（OPEC）とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPEC プラス」は6月6日に会合を開き、過去最大の現行水準での協調減産を7月末まで延長することで合意した。OPEC+は4月、5～6月の減産量を日量970万バレル、その後、7～12月は同770万バレルにすることで合意していた。

出典：ロイター通信

- ② 20年後半の石油需要（6月18日）

石油輸出国機構（OPEC）は、2020年7～12月の世界の石油需要は前年同期に比べ日量640万バレルの減少との見通しを発表した。1～6月は新型コロナウイルスの世界的な流行を背景に、前年比で日量1,190万バレルの減少を記録。

出典：日本経済新聞

(2) 水分野

- ① 主要プロジェクトの状況

新規 Independent Water Plant (IWP, 海水淡水化案件)

人口増加に伴う水需要の増加、既設の海水淡水化プラントの老朽化及び地下水の利用量削減に伴い、多くの新規 IWP 案件が計画されている。

SWPC の”7 Years Statement”によれば、2020年時点の水需要は1,370万 m³/D、給水量は1,040万 m³/Dであり、2026年時点での水需要1,450万 m³/Dに対し、同時点での目標給水量は1,510万 m³/Dとなっている（地下水、表流水を含む）。この目標に則り、今後実行される案件のリストは【表2】の通りである。なお、網掛された案件は現在入札が進行している案件である。

【表 2】 IWP の将来計画

給水地域	プロジェクト名	造水量(m ³ /D)	COD ¹
東部 (リヤド、カシム、 東部州)	Jubail 3B	570,000	2022
	Al Hassa	300,000	2023
	Ras Al Khair 2	600,000	2023
	Ras Al Khair 3	400,000	2024
	Jubail 4	300,000	2025
西部 (メッカ、メディナ、 バハ、タブーク)	Ras Mohaisen	300,000	2022
	Rabigh 4	600,000	2022
	Tabuk 1	400,000	2023
	Rabigh 5	400,000	2024
	Rayis 2	300,000	2025
南部 (ジザン、アシール)	Shuqaiq 4	400,000	2023
	Jazan 1	300,000	2023

出典：SWPC 7 Years Statement

また、現在入札が進行している IWP の状況は表 3 の通り。

【表 3】 現在進行中の新規 IWP の状況

更新日	プロジェクト名	造水量 (m ³ /D)	COD (年)	状況
6/14	Jubail 3B	570,000	2023	RFQ 発行。締切 10/1 へ延長。
6/17	Ras Mohaisen	300,000	2022	アドバイザリーの入札実施中 締切 6/21 へ延長
6/17	Rabigh 4	600,000	2022	アドバイザリーの入札実施中 締切 6/21 へ延長

出典：Global Water Intelligence

Independent Sewage Treatment Plant (ISTP, 下水処理案件)

現在の約 50~60%である下水道普及率を、2030 年に 95~100%へと向上させるべく、多くの新規案件が計画されている。SWPC の”7 Years Statement”によれば、2019 年時点での下水処理量は 560 万 m³/D であり、2030 年時点での目標処理量は 1,110 万 m³/D に設定されている。この目標に則り、今後実施される案件のリストは表 4 の通りである。なお、括弧書きされた数字は、将来の拡張計画における拡張後の処理量及び COD

¹ Commercial Operation Date: 商業運転開始時期

を指し、網掛された案件は現在入札が進行している案件である。

【表 4】 ISTP の将来計画

供給地域	プロジェクト名	処理量(m ³ /D)	COD
東部 (リヤド、カシム、 東部州)	Braydah 2	150,000	2023
	Al Haer	100,000 (200,000)	2024 (2027)
	Riyadh M	50,000 (100,000)	2024 (2028)
西部 (メッカ、メディナ、 バハ、タブーク)	Medina 3	200,000 (375,000)	2023 (2026)
	Tabuk 2	90,000	2023
	North Jeddah 1	25,000 (50,000)	2029 (2029)
南部 (ジザン、アシール)	Khamis Mushait 2	25,000 (50,000)	2023 (2027)
	Abu Arish 3	25,000 (50,000)	2024 (2028)
	South Najran	25,000 (50,000)	2024 (2028)

出典：SWPC 7 Years Statement

また、現在入札が進行している新規 ISTP の状況は表 5 の通りである。

【表 5】 現在進行中の新規 ISTP の状況

更新日	プロジェクト名	造水量 (m ³ /D)	COD (年)	状況
6/17	Buraidah 2	150,000	2023	RFP 発行。Tabuk 2 と合わせて入札可能。締切 12/15。
6/15	Medina 3	200,000 (375,000)	2023 (2026)	RFP 発行。締切 12/1。
6/17	Tabuk 2	90,000	2023	RFP 発行。Buraidah 2 と合わせて入札可能。締切 12/15。

出典：Global Water Intelligence 及び MEED

③ サウジアラビア水関連ニューストピックス

(ア) Firms express interest in Ras Al-Khair Sale

Ras Al Khair プラントの民営化について、サウジアラビアの National Center for Privatization & PPP(NCP)が SWCC に代わり、関心表明の募集を行った。情報筋によると、地域内外のデベロッパーや銀行等、最大 50 社が関心を表明した模様。

出典：MEED (2020/6/30)

(イ) Local utilities developers submitted a bid for the multiple utilities scheme

Qiddiya Development Company は Qiddiya プロジェクトのユーティリティ事業の入札に対して、ACWA Power と Alfanar からの応札を受けた。

本事業は Qiddiya の発電、海水淡水化、下水処理及び配水ネットワークを含んでいる。

出典：MEED (2020/6/30)

(ウ) Saudi desal academy starts life under lockdown

SWCC は、海水淡水化に関する研修センターである、The Saudi Water Academy を Jubail に設立した。同センターでは、コロナウイルスによる影響を受け、オンラインでの学習を可能としている。

出典：Global Water Intelligence (2020/7/2)

(ア) Export of bottled water in Saudi Arabia resumes after 9-years hiatus

サウジアラビアは 2011 年に停止されたボトルウォーターの輸出を再開する。ボトルウォーターの輸出業者は、環境水農業省 (MEWA) や Saudi Food and Drug Authority (SFDA) 及び産業鉱物資源省による認可を取得し、SR38/m³ の輸出料を支払う必要がある。また、輸出時の容器は 1L を越えてはならず、枯渇の恐れのない水源からの取水の場合は、工場の生産量の 60% までを輸出に回すことが可能。現在、国内には 180 の水工場が存在し、その殆どが余剰生産分を輸出に回す検討をするとみられている。

出典：Zawya (2020/7/5)

(イ) New law to ensure water conservations, fair prices

環境水農業省 (MEWA) の Al Fadhli 大臣は新たな水関連法について、水源の保全、開発、保護及び持続可能性と管理を確実にするものであると述べ、同法が国家水戦略 (National Water Strategy: NWS) の達成のツールになるとした。新たな水関連法は一連の手続きを経て適用される予定である。

出典：Saudi Gazette (2020/7/6)

(ウ) Regulating Saudi Arabia's most vital resource (and it's not oil)

新たな水関連法では、海水を除くすべての表流水及び地下水は公共財とみなし、MEWA の免許なしでの使用・開発は禁止される。また、許可なく免許の譲渡を行うことを禁止する。水料金については、MEWA 大臣の率いる新たな閣僚委員会より提案される。閣僚委員会は、MEWA の他、エネルギー省、産業鉱物資源省、経済企画省、財務省、都市村落省で構成され、提案された水料金は閣僚評議会の承認を受ける。この閣僚委員会は少なくとも 5 年毎に水料金の見直しを行う。新法は、MEWA 及び Electricity and Cogeneration Regulatory Authority (ECRA) に対して、水資源への投資・開発を検討する民間部門への情報提供を求めている。一方で、MEWA の免許を受けた業者は MEWA に対する情報開示を行う必要がある他、水資源の誤使用や緊急事態の状況を悪用すること、公正な競争の侵害等に対するペナルティを負う。ペナルティはそれぞれの規定の侵害に対して、最大 1 年間の業務停止、免許の取り消し、最大 530 万 USD) の罰金を含む。

出典：Arab News (2020/7/8)

5. ビジネス環境トピック

① 関税及び付加価値税（VAT）の引上げ

- 関税の引上げ（2020年6月20日適用）

当初2020年6月10日より、様々な製品の関税を5%～25%に引上げることが予定されていたが、改訂版の製品リストと共に6月20日からの引上げが発表された。以下が発表された製品リストのサマリーである。

【表1】関税率変更概要

製品	税率（変更前）	税率（変更後）
乳製品、食品	5%	6%, 10%, 12%, 15%
化学製品、プラスチック、ゴム等	5% & 12%	6.5% - 15%
革と革関連製品	12%	15%
紙と紙関連製品	5%	8% & 10%
生地、カーペット、靴、衣服等	5% & 12%	8%, 10%, 13%, 15%
大理石、セラミック製品、 ガラスセラミックス、ベースメタル、 鉄、銅、ニッケル、アルミニウム等	5% & 12%	8%, 10%, 12%, 13%, 15%
機械、設備、部品、車両等	5% - 12%	7%, 10%, 12%, 15%
光学機器、眼鏡、家具、ゲーム等	5% & 12%	15%

- 付加価値税（VAT）の増税（2020年7月1日適用）

2018年1月1日よりサウジアラビアが5%の税率で導入したVATは2020年7月1日に従来の3倍にあたる15%へと増加した。課税対象は、ガソリン、ディーゼル、食品、衣類、公共料金、タバコ、ソフトドリンク、ホテル宿泊施設等、ほとんどの商品とサービスとなっている。財務大臣はブルームバーグの電話インタビューに対し、VAT増税について以下の様に説明した。

1. VAT増税の焦点はサウジアラビアの医療と生活の保護
2. VAT増税は今年度だけでなく来年以降のサウジの安定した財政基盤の下支えに効果を発揮
3. ロックダウン中の消費の落ち込みもあり、VAT増税による今年度の財源への影響は軽微

出典：Al Arabiya（2020/6/29）

尚、2020年6月25日時点でのDeloitte and Touche & Co.の見解によれば、特定のサービスや商品について5%の税率が維持されるか否かは不明である。

一方で一部報道によれば、下記 11 のサービス及び製品については引き続き免税となるとの情報もある。

1. 保健省 (MOH) および食品・医薬品庁 (SFDA) により指定された医薬品および医療機器
2. 保健所でのヘルスケアサービス
3. パスポートの発行及び更新
4. 給与や福利厚生などの労務費
5. 投資を目的とした純度 99%以上の金、銀、プラチナの提供
6. 給与や福利厚生などの労務費
7. 住宅の家賃
8. 銀行及び金融サービス (金融商品、銀行口座の預金・貯蓄、クレジットカードの利息・貸付手数料)
9. 個人間の取引
10. 航空券やホテルの予約
11. 国際輸送サービス、スペアパーツ、消耗品、また輸送のための修理サービス

出典：Al Arabiya 2020/6/30、サウジアラビア・ザカート所得税局ホームページ、Arab News 2020/7/1 等

② 新型コロナウイルス感染状況

サウジアラビア保健省発表の感染状況は以下の通り (2020 年 7 月 13 日時点)。

【表 2】サウジアラビア新型コロナウイルス感染者数概要

	人数 (人)	前日比
新規感染者数	2,852	+73
新規回復者数	2,704	+962
累計感染者数	2351,111	+2,852
(内、回復者数)	169,842	+2,704
(内、死亡者数)	2,243	+20
患者数	62,026	+128
(内、重症者数)	2,235	-10
検査数	2,336,874	+66,155

出典：サウジアラビア保健省

主要都市の感染者数は以下の通り。

【表 3】 サウジアラビア主要都市感染者数

	リヤド	ジェッダ	ダンマン	メッカ	メディナ
累計感染者数	50,501	27,610	15,137	26,618	15,335
(内、回復者数)	40,695	22,990	9,402	23,491	13,273
(内、死亡者数)	596	577	78	483	106
患者数	9,210	4,043	5,657	2,644	1,956
人口(万人)	768	398	110	168	118
感染者/100万人	6,579	6,944	13,761	15,888	12,961
死亡者/1,000万人	776	1,451	709	2,883	896

出典：サウジアラビア保健省

③ 新型コロナウイルス感染関連政策情報

- 各種ビザ及び居住許可証の延長措置（2020年7月5日）
内務省は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う影響緩和策の一環として、各種ビザ及び居住許可証（イカーマ）の有効期間延長等措置を発表。
 1. 在留外国人の最終出国査証の有効期間を無料で延長。
 2. 出国・再入国査証を取得し現在サウジアラビア国外にいる外国人の期限切れの居住許可証の有効期間を無料で3か月間延長。
 3. 現在国外にいる全ての外国人の出国・再入国査証の有効期間を無料で3か月間延長。
- 外出禁止措置解除（2020年6月21日）
サウジアラビア政府は、新型コロナウイルス感染拡大防止策として導入されていた、外出禁止令を解除。社会生活を再開する上で、以下の対策を講ずることが求められる。何れの措置も保健省が随時検証を行い、改訂を実施予定。
 1. 社会活動における必要な予防策を講じること。
※詳細は、サウジアラビア保健省ホームページを参照（アラビア語）。
 2. ソーシャルディスタンスの確保及び鼻と口を覆う形でのマスクの着用。
 3. 50人を超える集会の禁止。
 4. 小巡礼（ウムラ）及び預言者モスクへの訪問の禁止。
 5. 陸路・空路を含めた出入国及び国際線の運航停止継続。

④ 国際線運航情報

エティハド航空：8月1日（日）より、アブダビ・リヤド便の再開を発表。但し、サウジアラビア政府による国際線の運航停止措置の解除は発表されていない。

参考：エティハド航空ホームページ

⑤ 2020年の大巡礼

サウジアラビア国営通信によると、6月22日、巡礼省は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受け、2020年の大巡礼は参加人数を最小限に絞り国内からの参加者のみで行うことを発表した。これは感染拡大の抑制と巡礼者の健康を考慮した上での決断となったが、国内の宗教界をはじめ、ムスリム世界連盟やイスラーム協力機構はその決定を支持するコメントを発表している。サウジアラビアにおける聖地巡礼は歴史的に宗教行事として重要な意味を持つ一方で、巡礼月には毎年200万人を超える巡礼者が来訪することから、近年ではインフラ整備や医療体制の構築、観光などの多岐に亘るビジネスに大きな影響を与えている。油価低迷に加え、新型コロナウイルス感染拡大がサウジアラビアの実経済にもたらす影響は計り知れず、今後の経済動向を注視する必要がある。

⑥ IMF 地域別成長率見直し

IMFは地域経済見直しの見直しを行い、4月の見直しより2020年の実質GDP成長率を大幅に引き下げた。サウジアラビアを含むGCC諸国の実質GDP成長率は、2020年は▲7.1%、2021年は+2.1%としている。

IMFは、中東・北アフリカの成長率見直し引き下げの要因として、2つの元凶（石油価格変動と減産による減収、新型コロナウイルス感染症に関連した封鎖・規制）を挙げている。また、感染症対策が観光、巡礼、交通、小売に予想を超えた阻害をもたらしていることを指摘している。